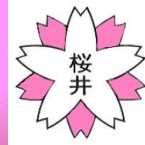


～チャレンジ桜井～



上手に褒めて、ポジティブな子に！

副校長 清野 正康

爽やかな風の中、運動場から聞こえる軽快な音楽と子どもたちの声。『チャレンジ桜井スポーツフェスティバル 2023』に向けた活気ある雰囲気とともに5月が過ぎていきました。初夏を通り越し真夏を思わせる暑い日もあり、WBGTメーターの値を気にしながら練習した日もありました。5月27日に実施しました『チャレンジ桜井スポーツフェスティバル 2023』では、子どもたちへの温かいご声援をありがとうございました。今年度は、参観者の人数制限をなくしたことで、多くの保護者、地域の方々に子どもたちが頑張る姿をご覧いただくことができました。会場は、演技・競技に精一杯取り組んでいる子どもたちを讃える大きな拍手と笑顔、温かい眼差しに包まれていました。またその応援から更なる力を与えられて頑張る子どもたちの笑顔も輝いていました。

このような素敵な一日となったのは、子どもたち一人ひとりの頑張りはもちろん、当日まで子どもたちを応援してくださった各家庭の皆様、準備・片付けてご尽力くださったPTA役員・保護者ボランティアの皆様、会場の安全を見守ってくださった学援隊の皆様、温かい励ましのお言葉をくださった地域の皆様のおかげと感謝しております。また、子どもたちを輝かせようと支援してきた本校教職員の熱意もありました。学校教育が多くの方々に支えられて成り立っていることを改めて実感した一日でした。

それぞれの競技・演技に取り組んでいる子どもたちを見ながら、当日までの日々に一人ひとりにあったであろうドラマに思いを馳せていました。常にやる気に満ち溢れていた子もいたでしょう。なかなかやる気が出なかった子もいたかもしれません。スポフェスに向けての感情もその理由も様々あると思いますが、『チャレンジ桜井スポーツフェスティバル 2023』がどの子にとっても自己有用感の高まりにつながる行事であってほしいと思います。自己有用感とは「誰かの役に立てている感覚」です。この感覚は、「手伝いをしたら喜んでもらった」「自分の行為を褒めてもらった」等々、『人との関わり』の中で高まっていくのだそうです。是非、スポフェスまでの日々や当日の姿からお子さんを肯定的に捉え、頑張りや努力を認め、褒めてあげてほしいと思います。特に5・6年生は、SF実行委員としての役割も果たしてくれました。

《褒めるときのポイント》

大人が考えている水準を満たしたときだけ褒めるのではなく、子どものこだわりやどんなことを努力したのかを聞き、子どもなりの水準に達していたら、それが仮に大人が考える水準に達していなくても、「こんなふうに頑張ったんだね」と認め、結果にこだわらず過程を褒めることが大切。
「ソクラテスのたまご」より

周りにいる大人が褒め上手になり、子どもたちをたくさん褒めて、自分のことをポジティブに捉えることができる、笑顔いっぱいの子どもの数を増やしていきたいですね。

先日、稲荷森バス停までの道すがら、いたち川でホテルを見ました。黄緑色の柔らかい光に癒されました。桜井小に着任して2か月、また一つ地域の素敵ポイントを見つけました。